

令和5年度学校自己評価システムシート（県立鴻巣女子高等学校）

目指す学校像	(1) 自立した女性の育成 (2) スペシャリストの育成
--------	------------------------------

重点目標	1 学習環境の整備と授業改善を通して、生徒一人一人の学力を向上させる。 2 きめ細やかな指導を通して、生徒の主体的な進路実現を支援する。 3 規律ある高校生活を通して、生徒一人一人を大切にしている指導を推進する。 4 地域との連携事業や情報発信を通して、地域に貢献する学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	10名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価					年 度 目 標		年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) 学習環境づくりの指針「授業5原則」「CLEAN THE TABLE」「朝読書」の徹底で校内は大変落ち着いており、計画的な学習活動が展開されている。また、ICT 関係の整備や教員の研鑽により、ICT 機器を活用した授業が積極的に行われている。 (課題) 生徒用タブレットの導入に伴い、授業におけるICTのさらなる活用が求められる。また、昨年度から実施された観点別評価への理解を深め、より適切に実施していく必要がある。	生徒一人一人に学科・教科ごとの具体的な目標を持たせ、学習意欲や学力を向上させられたか。	①授業ごとに年間学習計画を周知することで、明確な学習目標を生徒に持たせる。また、学期ごとに学習を振り返らせ、まとめさせる。(学年・授業担当) ②学習の方法(予習・復習等)を生徒に具体的に指示することで、学力の底上げを図るとともに家庭学習時間の増加につなげる。(授業担当) ③ICT 研修会を行い、授業でのICT活用を支援する。(複数回実施) ④各種研修会や授業公開週間等を活用し、観点別評価への理解深化と教員間の学び合いの充実を図る。(複数回実施)	①学習に関する意識を高めた生徒の割合(前年度との比較) ②家庭学習時間の状況(前年度との比較) ③授業での ICT 活用状況・頻度 ④研修会等の実施状況と成果	コロナ禍から脱し、以前とほぼ同じ学習指導が行えた。また、ICTの活用が進んだ。 ①③:学力向上の実感(76.7%→82.6%) 課題提出の自己評価(94.2%→95.6%) ②:家庭学習時間はやや底上げされた。(30分未満:61.3%→58.7%, 1時間以上 15.0%→16.3%) ③ICT研修会を2回実施。頻度の差はあるが、どの教科でもタブレットなどのICTを活用している。 ④各種研修会を実施(心肺蘇生法、観点別評価、特別支援教育など)を実施するとともに授業公開週間を設定し、職員の関係性向上、新評価方式の理解深化、生徒への対応力向上を図った。	A	学力向上を実感する生徒の割合は前年度より上昇し、家庭学習時間も改善されたが、十分とは言えない。家庭学習を促進する取組を検討する必要がある。 家庭の理解もあり、タブレットは1年生全員が購入できた。さらなる活用に向けて研究を進める必要がある。 観点別評価が2年目となり、評価の方法等について理解が進んできた。	
2	(現状) 自立した社会人となるよう、学年に応じた体系的な進路指導を行っており、卒業時の進路決定率も高い水準にある。 (課題) 進路に対する生徒の意識を高め、進路決定の充実を図る必要がある。学校としては、進学希望者の増加、学部学科の内容の多様化に対応した指導の充実、オンライン見学・出願等への対応等の研究が必要である。また、保護者に対する情報発信・進路意識の涵養も課題である。	生徒一人一人の進路実現に向けて、適切な進路指導計画、キャリア教育を一層拡充させられたか。	①基礎力診断テスト等の結果を活用して、各生徒の実態を把握する。(進路部・学年・授業担当) ②進路の手引きを定期的に活用し、進路行事・キャリア教育の振り返りを行わせることで生徒の進路意識を高める。(学年・クラス) ③進路希望調査、二者面談、三者面談の実施により生徒の実態を丁寧に把握し、個に応じた指導を行うことで進路未決定者を減少させる。(進路部・担任) ④講演会や学年懇談会などで、保護者へ進路関係の情報を発信する。(進路部) ⑤進学・就職希望者向けの特別講座を実施する。(学年・進路部)	①テスト等の結果分析と活用状況 ②③進路意識を高めた生徒の割合(前年度との比較) ④進路未決定者の割合(前年度との比較) ⑤保護者の進路行事参加状況及び情報発信状況 ⑥実施内容・回数など	生徒の努力と学校の組織的な指導により、3年生の進路決定は順調である。 ①基礎力診断テスト等や定期考査の結果をもとに、生徒の学習到達度を把握し、卒業後の進路や次年度の選択科目を指導する上で参考とした。 ②総探の時間を活用し、進路行事の振り返りの指導を行い、進路意識の定着を図った(進路行事に積極的に参加 87.9%→86.5%) ③進路未決定者の割合(8.0%→9.7%) 1/15 現在 ④PTA主催の進路講演会及び学年別懇談会で進路決定の流れ・心構え等について説明した。 ⑤進路に係る面接指導、論文指導、進学補習を行った。	B	就職は、希望者1名あたり3社超の求人があり、決定も順調だった。 就職試験や入試へのICTの導入が進んでいる。高校においても変化に応じた対応を進める必要がある。 進路への意識は高い水準にあるが、漸減傾向にある(R3 90.0%) コロナ禍も明け、保護者向け進路講演会を実施できた。さらに保護者の意識を高めるため、情報発信を積極的に行う必要がある。	
3	(現状) 「授業5原則」等の全校的な取組により生徒の基本的な生活習慣や自己管理能力は高い水準にある。学校行事に多くの生徒が主体的に参画しているが、より積極性を引き出したい。 (課題) 生徒の積極性を引き出すために、自己肯定感を高める指導が必要である。また、ネット社会のトラブル防止やマナー向上を図ることにより、他者を思いやる「気付く」力を養う取組を行う。	生徒の自己管理能力、コミュニケーション力と他者を思いやる「気付く」力を育成するとともに、各種の個別支援体制を改善できたか。	①生徒手帳の活用を計画的に指導し、生徒各自にスケジュール管理を徹底させるとともに、生徒の自己管理の状況を把握・指導する。(クラス担任) ②各種のマナーの向上や良好な人間関係の構築、SNSトラブル等に関する講演会、学習会を実施する。(生徒部、在り方生き方に係る教育推進委員会) ③生徒が整理・整頓できる力を養うため、日常的に荷物ダイエット等粘り強い指導を行う。(学年) ④不安や悩みを持つ生徒への教育相談やカウンセリング機能を整えて実施する。(体制の整備・強化)	①②③学校生活アンケート調査結果による成果と前年度比較 ①自己管理の意識を高めた生徒の割合(前年度との比較) ②各種講演会等の事後アンケート項目の肯定的回答(8割以上) ④個別支援に関するアンケート項目の肯定的回答(前年度との比較)	生徒の自己管理能力の水準は高い。悩みや不安を抱えた生徒への支援体制も充実している。 ①職員の指導が功を奏し、HR、授業、学校行事等で、生徒手帳にメモすることが習慣化されている。生徒の自己管理能力は高い水準を維持している。(課題提出の自己評価 94.2%→95.6%) ②生活委員会による挨拶運動を年2回行った。マナーへの意識は高い(「あいさつ」の自己評価:94.6%→92.8%)。ソーシャルスキルトレーニング、非行防止教室、自転車マナー教室を実施した。 ③「CLEAN THE TABLE」の生徒自己評価:97.3%→94.9% ④特別支援教育巡回支援員や本校独自のカウンセラーの活用で、困難を抱えている生徒への支援体制は充実している。(悩みや不安を相談する相手・場所がある:86.3%→87.4%)	B	あいさつに課題がある生徒が微増した(5.4%→7.3%)。また、人間関係づくりの不得手さに起因する生徒間のトラブルも散見される。生徒のソーシャルスキルを高めるための計画的な指導を検討する必要がある。 教員の生徒理解スキルを向上させ、生徒への対応力を磨く必要がある。 集会で生徒は常に静かで整然と並んでいる。今後も続くように指導していきたい。	
4	(現状) コロナ禍が一段落したことにより、文化祭の限定公開ができるようになるなど、外部との交流は復活しつつある。鴻巣市の植栽ボランティアへの参加も堅調である。 (課題) 生徒の社会貢献意識は高く、外部機関とWIN・WINの関係づくりを学校全体で進めていく必要がある。また、より多くの中学生・保護者に本校を知ってもらうため情報発信に努める必要がある。	外部との連携を深め、生徒の活躍の場を広げられたか。外部に効果的に情報発信ができたか。	①外部との連携を深めるとともに、多くの生徒が地域交流に参画できるよう、丁寧に指導・支援する。(通年:生徒部、教科担当) ②各種の体験活動、外部連携事業等の充実を図る。(担当) ③学校説明会や HP の充実を図ることで、中学生とその保護者に本校への理解を促進する。(担当) ④一斉メール配信や HP の積極的な更新、学校通信の発行により、の情報発信を強化する。(通年)	①②地域交流等の実施状況と成果 ③説明会参加中学生数 ④配信回数、記事数、発行回数など	生徒の活躍の場を設けることができた。また、学校の情報発信を積極的に行えた。 ①鴻巣市フラワーロード事業(ボランティア)等による地域連携の実施。(学校行事に積極的に参加:97.3%→95.8%) ②小学生とのスポーツ交流事業(バレー部)を実施予定(2月)。 ③④初の校外説明会を実施。HPの新着情報76→138(12月末現在)。学校通信7回発行。Classiによる保護者への情報発信(27回)。	A	学校 HP の更新回数は前年度より大幅に増加したが、部活動等の情報発信を強化する必要がある。 コロナ禍後の近隣との関係を再構築し、生徒が外部で学ぶ機会の確保につなげたい。 学校説明会で部活動や生徒会役員の活躍の場を設けることは、生徒募集ばかりでなく生徒たち本人にとってもたいへん有益である。	

学校関係者評価	実施日 令和6年2月6日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちは授業にしっかり取り組んでおり、充実している様子である。 ・学習に関するアンケート結果で前年度を上回っている項目が多いのは素晴らしい。 ・生徒の学力向上の実感が高まっているのは、生徒の努力と学習時間が増えたことが理由だと思う。 ・学校が生徒の力をうまく引き出してくれている。 ・検定試験の結果は素晴らしい。資格など目標があると生徒が学習へと向かっていくのだと思う。
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任が生徒たちの状況把握をしっかり行っており、学年を引っ張っている。 ・将来、自分がどうしていきたいのかを考え、表現することは非常に大切である。就職する生徒たちには特にその力が求められている。
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の出席状況が大変よく、真面目で優しい子が多い。 ・生徒たちは授業5原則や CLEAN THE TABLE にしっかり取り組んでいる。しかし、このことは保護者にあまり浸透していないようだ。 ・先生方はフレンドリーで、すぐく生徒に寄りそっていると感じる。 ・生徒会役員たちは非常に頼もしく、学校をよくしていきたいという彼女たちの気持ちがよく伝わってきた。 ・いじめ対策や相談体制が充実していると感じる。 ・ほとんどの保護者が、入学させてよかったと感じているのは素晴らしい。
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の社会貢献意識が高くて素晴らしい。シチズンシップ教育に力を入れている。これからの活躍が楽しみである。 ・小学生とのスポーツ交流事業は生徒にとって貴重な体験になっていると思う。 ・検定試験の結果はよいが、入試倍率が低迷しているのが残念である。